

京浜臨海部におけるまちづくりの取組をさらに推進します

～AGC株式会社が末広町地区にバイオ医薬品 CDMO 施設の整備を決定～

今般、AGC株式会社（以下、「AGC」）は、京浜臨海部の末広町地区（鶴見区）において、バイオ医薬品 CDMO（詳細は裏面参照）施設の整備を決定しました。

この施設では、AGCの欧米拠点で培った最先端の技術を導入し、国際的な医薬品品質基準(GMP)に対応したバイオ医薬品の製法開発・製造を行うとともに、感染症パンデミックが発生した際には、mRNA ワクチンをはじめとする最先端技術を用いたワクチンの製造に切り替えできるデュアルユース設備を導入するなど、海外依存度の高いバイオ医薬品の国内における開発・製造能力の向上に大きく寄与するものです。

また、本施設整備事業は経済産業省の「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」の採択を受けており、日本でワクチンを安定的に生産できる体制強化への貢献が期待されています。

新たな施設が立地する京浜臨海部の末広町地区は、AGCをはじめとする立地企業の皆様と横浜市が連携して、将来のまちづくりに向けた検討を進めているエリアです。

今回のような先端的なモノづくりや研究開発が行われる施設の整備などを契機に、研究開発施設の更なる集積を図るとともに、脱炭素化やGX※の実現に繋がる新たなまちづくりに向けた取組を推進していきます。

※GX：グリーントランスフォーメーション

施設概要	
予定地	末広町地区（鶴見区弁天町）
施設規模	地上4階
延床面積	約20,000平方メートル
整備目的	バイオ医薬品（抗体医薬品、mRNA 医薬品等）の製法開発・製造
稼働開始（予定）	2026年（一部2025年に先行稼働）
投資総額（見込み）	約500億円
雇員人数（見込み）	約400名（最大稼働時）



▲京浜臨海部（末広町地区）位置図



▲新施設の完成予想図

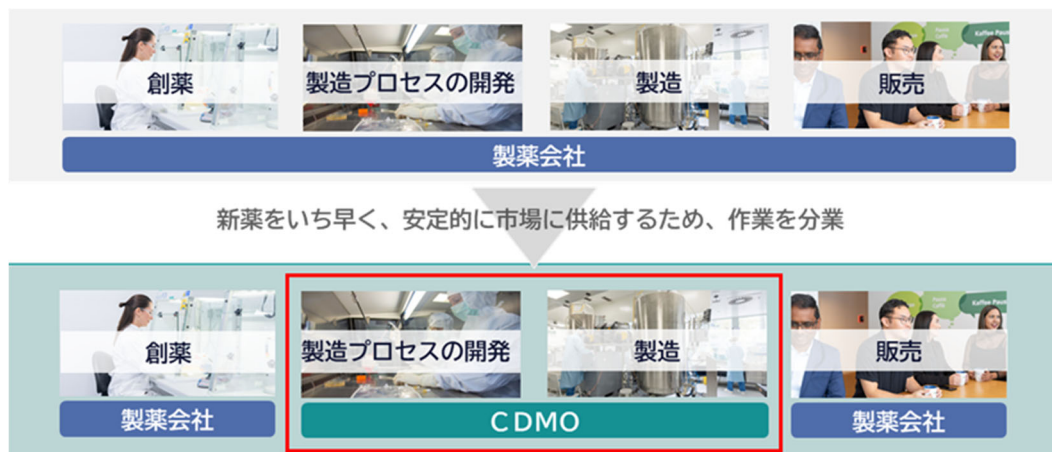


【裏面あり】

【参考】CDMO（Contract Development and Manufacturing Organization）について

⇒製薬会社のパートナーとして、医薬品の製造プロセス（製法）の開発や製造を受託する会社。

- ・医薬品の構造や製造技術が複雑化し、新薬の研究開発に巨額な投資が求められるなか、製薬会社は新薬を生み出す研究と販売に集中し、製造プロセス開発や製造を外部に委託することで、高品質な医薬品のスピーディーかつ安定的な市場への供給に繋がる。



■末広町地区における、今後のまちづくりについて

京浜臨海部の末広町地区では、AGCを含めた立地企業7社が「まちづくり協議会」を設立しています。この協議会に横浜市も参画し、今回、施設が建設される弁天橋駅周辺エリアにおいて、先端研究開発が行われる新たなまちづくりを検討しています。

また、末広町地区には、GX関連の先端技術を有するグローバル企業が集積しており、実証実験や新技術開発などの脱炭素イノベーション創出に向けた様々な取組を進めています。

こうした地区の状況等を踏まえ、AGCのバイオ医薬品CDMO施設のように国内外から研究者が集まる「先端研究開発拠点」の形成を図るとともに、脱炭素化やGXの実現に繋がる投資を呼び込む「脱炭素化推進エリア」の形成に向けて取り組んでいきます。

日本や世界の課題解決に繋がるイノベーションが、この末広町地区を舞台に展開されることを目指し、引き続き、立地企業の皆様と連携しながら新たなまちづくりを推進していきます。



食品廃棄物リサイクル(H30.8~)
【株Jバイオフードリサイクル】



アンモニア燃焼実証(R5.6~)
【AGC株】



メタネーション実証(R4.4~)
【東京ガス株】
※R5.7~：ごみ焼却工場のCO2活用



下水汚泥からリン回収(R5.3~)
【横浜市・JFEエンジニアリング株】

お問合せ先

(京浜臨海部のまちづくりに関すること)

横浜市都市整備局企画課長

森 隆行

TEL 045-671-2007

(AGCのバイオ医薬品CDMO施設に関すること)

AGC株式会社 広報・IR部 広報チームリーダー

小田 健一

TEL 03-3218-5603